

Project	地域協働専攻 国際協働グループ
13	函館と演劇文化
メンバー	曾我部 雄基 / 柁瀬 仁那 / 須藤 謙太 / 岡部 壮汰 / [学 生] 井上 翔太 / 金田 莉奈 / 鉾建 峻河 / 立花 怜生 / 中川 翔太 / 田中 良輝 / 竹内 瑠菜 [担当教員] 星野 立子

**【背景】**

函館における地域と演劇の関わりについて、地域に根ざした演劇文化があるにもかかわらず主に若い世代の演劇への関心が薄いという問題がある。そこで函館と演劇文化の現状を調査し改善しようと考えた。

**【目的】**

- ・活動を通して、地域と演劇の関係について知る。
- ・活動を通して、演劇という文化の意義や魅力について知る。
- ・活動を通して、演者としての知識を身につける。
- ・活動を通して、演劇についての発信を行う。

**【概要】**

函館に存在している演劇団体について調査を行うことで、函館と演劇の関係を探るとともに、コロナ禍における演劇の在り方を知る。演劇という文化の意義やその魅力について感じる。演劇から普段の生活に活かせることはないか考える。実際に演劇を体験してみることで、客席からではわからない工夫や技術を知る。一年間の活動の締めくくりとして、雑誌の刊行や地域の方々とのシンポジウムを行い、演劇について発信する。

**【プロセスと成果】**

前期は、『サンシャイン・ボーイズ』を観劇し、函館演劇鑑賞会事務局長・鈴木順子さんにお話を伺うことで、地域で受け継がれてきた演劇文化について知ることができた。また、演劇ユニット41×46主宰の館宗武さん、札幌の劇団イナダ組代表イナダさんにお話を伺い、お二方の演劇に対する思いや、芸術の中の「演劇」の特徴について知ることができた。その後、函館市に存在している演劇団体についての調査を行った。その結果団体によって目的や構成メンバーに多様性があることが分かった。

後期は、冊子『函館と演劇文化』の編集作業・刊行を行った。また、青森訪問・空間シアターアクセプ代表の田邊克彦さんからお話を伺い、実際に舞台に立ってみて演じてみることで、演者としての演劇を肌で感じることができた。演劇ユニット41×46特別公演『人間の証明 或る男の歌』を観劇し、メンバーで意見の交換を行った。その後、1年間の活動の締めくくりとして、雑誌の刊行や地域の方々とのシンポジウムを行い、演劇について発信した。当日は20代～60代の計11名の方々に参加していただき、たくさんの方々の反響を頂くことができた。



館宗武さんからお話を伺う様子



田邊克彦さんとの交流の様子

### 【総括と反省・今後の課題】

前期は、概ね目的を達成することが出来た。

後期は、前期に学んだことを活かしながら、目的を達成することが出来た。また、前期の活動と比較して、メンバー全員での一体感が増し、協力して進めることができた。

活動を通して、議事録をとり、活動の振り返りをこまめにすることでプロジェクトをさらに効果的なものにすることができた。

今後の課題として、自発的・活発な質疑応答が挙げられる。

### 【地域からの評価】

以下、シンポジウムで得ることができた地域からの評価である。

- ・函館の演劇状況が少しわかりました。ありがとうございました。(60代)
- ・函館に、演劇が好きで演劇を伝承したいと思っている方々が集っていることに感動しました。劇に関わる者として、様々な立場の方々のお話が聞けて、よい経験となりました。ありがとうございました。(40代)
- ・演劇をされる方、鑑賞文化を支える方、それぞれの考えを聞くことができ、よかったです。お疲れ様でした。冊子も興味深いので、帰宅後、ゆっくり拝読したいと思います。(40代)
- ・自分は学生の演劇団体に所属していますが、「学生は学生の内輪で」みたいな意識を団員に感じることがあります。そんな中で外界の皆さんのお話を聴けたのはとても幸運でした。ありがとうございました。(20代)
- ・演劇を創っている方、観る場を提供する方、それぞれの立場から、演劇に対する想いをきくことができ、非常に貴重な機会を頂くことができました。私自身、演者をやってきましたが、表現者の方のお話をきいて勉強になりました。(20代)
- ・少し頭がこんがらがっているが、大変タメになった。(30代)
- ・普段聞くことのできないお話がたくさんあって、非常に楽しかったです。自分自身の創作にも役立てていきたいと思っています。本日はありがとうございました。(20代)
- ・演劇鑑賞会に入会して、芝居の素晴らしさを人に伝えるむずかしさを感じていました。けれど、私が誘った方が感動して、又別の方に入会をすすめている事を知り、「感動」は伝わっていくのだと思いました。「目の前に生身の人間がいると脳が本気になる」まさに、生の舞台は、舞台と観客が一体になって作りあげていくところが最高です。本日はありがとうございました。(60代)
- ・演劇が好きで今日来てみました。刺激になった1日でした。ありがとうございました。(30代)

### 【年間スケジュール】

#### ■前期

- 4月15日(金)地域プロジェクト I 始動
- 4月26日(火)『サンシャイン・ボーイズ』観劇(函館芸術ホール)
- 5月13日(金)17:30から(函館演劇鑑賞会事務所)函館演劇鑑賞会事務局長・鈴木順子さんにお話を伺う。
- 5月18日(水)劇団イナダ組『slow dome』観劇(メンバー1名)
- 5月27日(金)演劇ユニット41×46主宰の館宗武さんにお話を伺う。
- 5月末～7月初め函館市内の劇団の調査。
- 6月10日(金)演劇理論書に関する課題の発表。
- 6月24日(金)札幌の劇団イナダ組代表イナダさんにお話を伺う。
- 7月10日(日) 16時～17時函館野外劇を観る。(メンバー3名)
- 7月12日(火)劇団四季『ロボット・イン・ザ・ガーデン』スタッフ手伝い(函館市民会館)(メンバー1名)
- 7月24日(日)15時～16時半 座談会
- 7月中旬～下旬 中間発表会に向けての準備
- 7月31日(日)中間発表会

#### ■後期

- 10/13(木)地域プロジェクト II 始動
- 10/20(木)冊子『函館と演劇文化』編集作業
- 10/26(水)劇団PaPの林絢さんと和野一稀さんとのワークショップ
- 11/11(金)冊子『函館と演劇文化』刊行
- 11/13(日)青森訪問・空間シアターアクセブ代表の田邊克彦さんのお話
- 11/17(木)青森訪問の振り返り
- 11/24(木)シンポジウム打ち合わせ開始
- 1/14(土)・1/15(日)演劇ユニット41×46特別公演『人間の証明 或る男の歌』観劇(11名)
- 1/19(木)シンポジウム最終打ち合わせ
- 1/21(土)シンポジウム開催
- 1/28(土)成果発表会

